

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	鹿児島県
-------	------

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	吉田町立宮小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	13
児童数	9	12	14	17	11	14	0	77	

研究の概要

1. 研究主題

未来を拓く学力の向上をめざして
- 「基礎学力」の向上と「豊かな感性」の育成を通して -

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年の国語・算数
「基礎学力」とは、すべての学習を支え、基盤となるものであるととらえている。そこで、一人一人の学力の実態を把握しながら、指導方法の改善・工夫を図り、一年一年着実な積み上げをしていきたい。また、この「基礎学力」等を身に付けていく過程ではなくまれる自信や成成感、学ぶ意欲を高め、生き生きとした学習活動の源となるものであるから、「感性」をはぐくむなど情意面の育成も見落としてはならない。全職員で取り組む態勢を整えることでより一層効率的な研究を推進していけるので、全学年で取り組むこととした。

教科については、「基礎学力」の中でも、「読み・書き・算」の知識・技能等は基本中の基本であるとの考えから、これに関連する教科である国語と算数に重点を置くこととした。

(2) 年次ごとの計画

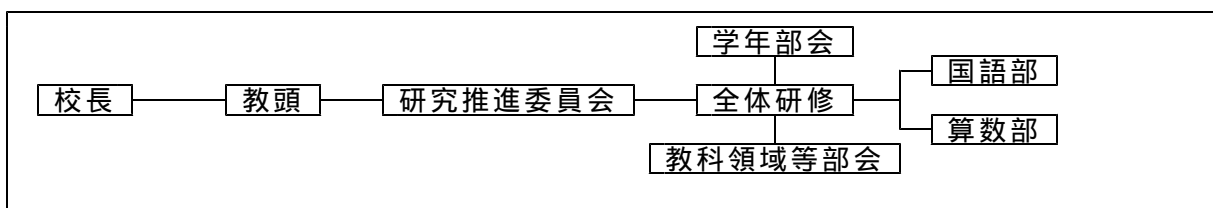
平成14年度	<p>テーマ 「読み・書き・算」の力を高めるための実践研究</p> <p>研究の見通し(仮説) 「読み・書き・算」の力を充実させていくなれば、学習に自信を持って取り組むことができるとともに、国語・算数の学習における思考や練習の充実を図ることができ、授業内容の充実が図られる。</p> <p>研究の内容・方法 研究内容...理論研究 - 「確かな学力向上のための2002アピール『学びのすすめ』の把握、新学習指導要領の内容把握 実践研究 - 「読み・書き・算」(家庭学習の工夫も含む)に関する実践内容の検討・実践 ・ 音読、暗唱の定着 ・ 漢字の学ばせ方、定着のさせ方 ・ 計算力の向上、基本的用語の定着のための取り組み 基本的学習指導過程や評価について ・ 研究授業をととした研究 基礎基本の時間・放課後指導の時間の設定</p> <p>研究方法...児童の実態の把握(学力検査の分析、児童の意識調査、漢字力・計算力の定着率の把握) 漢字力テスト・計算力テストの実施(毎学期)と結果の累積 保護者に対する子どもの伸び等についてのアンケートの実施 講師招聘、研究授業・授業研究の実施 C R Tの実施・分析</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 「評価計画を生かしながら，個に応じたきめ細かい指導と評価の充実をめざす研究と実践」</p> <p>研究の見通し 単元や題材の指導計画とともに，評価計画を立てることで，一人一人に応じたきめ細かい指導を適切に行うならば，子どもの学習意欲が高まり，充実した授業を展開することができる。</p> <p>研究の内容・方法 研究内容... ・ 評価についての理論研究と改善 ・ 評価方法の工夫 ・ 個に応じた指導の工夫 ・ 「基礎・基本の時間」「放課後指導の時間」の充実 ・ 基礎学力の定着をめざした『家庭学習の手引き』の作成</p> <p>研究方法... 児童の実態把握（NRT，CRTの実施と分析） 評価の累積 研究授業・授業研究，研究公開，他校公開参観 県総合教育センターの短期研修・来所研修の活用</p> <p>* テーマ = 指導計画を立てるとともに評価計画を立て，授業を展開することにより，子ども一人一人を適時に評価し，指導の改善，工夫へとつなぐことができるようにすることが重要だととらえたので，一部変更した。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 「指導と評価の一体化をめざした研究と授業実践」</p> <p>研究の見通し 2年間の研究と実践の見直しを行うとともに，自己評価・相互評価を充実させて，補充的学習・発展的学習に計画的に取り組んでいくならば，確かな学力の定着を図ることができる。</p> <p>研究の内容・方法 研究内容... ・ 発展的な指導における内容の検討と指導の工夫 ・ 自己評価，相互評価の工夫 ・ 3年間の研究のまとめ ・ 家庭・地域との連携</p> <p>研究方法... 児童の実態把握（NRT，CRTの実施と分析） 評価の累積 研究授業・授業研究，研究公開，他校公開参観 県総合教育センターの短期研修・来所研修の活用</p>
--------	--

3年間を通して	<p>テーマ 「豊かな感性の育成」</p> <p>研究の見通し 出会った事象に興味・関心をもち，探究したり，繰り返し練習したりする中で，自信や成就感を味わうことができるならば，学ぶ意欲が高まり，さらに向上しようとする心情を培うことができる。</p> <p>研究の内容・方法 研究内容... 豊かな体験活動の設定（内容・方法） 一人一人の個性の伸長を図るような働きかけとその評価 読書活動の充実・ロビーコンサートの定期的実施 学校ビオトープの充実・愛鳥モデル校としての取り組み 等</p> <p>研究方法... 児童の意識調査</p>
---------	--

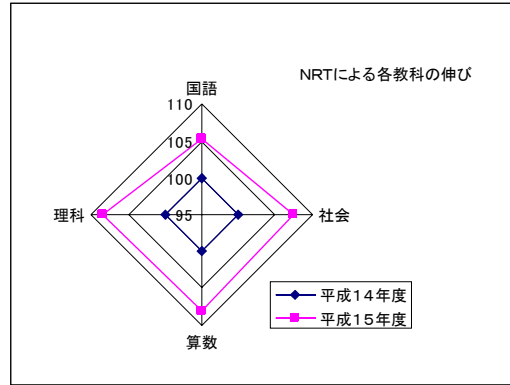
(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題
1. 研究成果

(1) 学力の全体的な伸び - N R Tの結果から

	平成14年度	平成15年度
国語	100	105.2
社会	100	107.4
算数	100	107.9
理科	100	108.3
教科平均	100	107.2



- 平成14年度のNRTの結果を100としたとき、各教科上記のような伸びが見られた。
- 国語科と算数科を中心に取り組んできているが、社会科や理科も伸びている。

(2) 今までの実践を通して

「読み・書き・算」についての取り組み

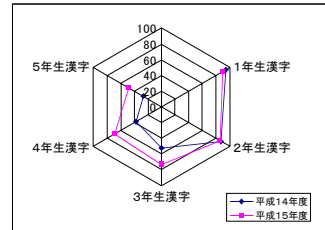
「読み」

- 初めての文章でもある程度読めるようになってきた。
- 暗唱をすることで、声に出して読むことに自信を持てるようになった。

「書き」

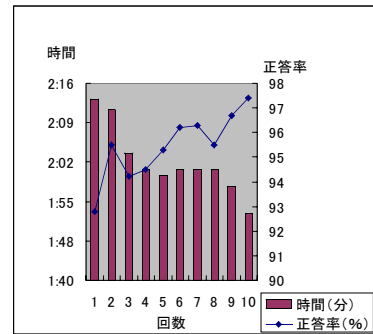
- 意識して既習漢字を使おうとする様子が見られる。
- 漢字の書き順や「止め」「はね」「はらい」についての意識が高まった。
- 3年生以上の漢字の定着率が伸びてきている。
- 辞典を引く姿をよく見かけるようになった。辞典を引くことが苦にならなくなっている。

[漢字定着率の伸び(%)]



「算」

- 計算力が向上してきている。
- 計算する前に前回の記録を確かめるなど、計算の速さや正確性を高めようとする姿勢が見られる。また、次の段階へ進みたいという意欲的な声もよく耳にするようになった。
- 右のグラフは、6年生の計算力テスト「あまりのないわり算100題」の所要時間と、正答率の変化を表したものである。授業最初に5分間取り組むことで準備運動となり、授業への集中力を高める要素にもなっている。



授業に関して

- 授業の流れ（基本的授業過程）について、共通理解を図って指導に当たっているので、全学年で子どもたちのスムーズな動きや集中した姿が見られる。
- 評価補助簿を活用することにより、これまでより一人一人の子どもに目を向けることができた。
- 国語では、「書く」領域でTTを取り入れた。一人一人の子どもに細かい指導ができた。
- 算数のTTでは、つまづいている子どもへの個別指導の時間が多くなった。
- 放課後指導の時間を計画的に推進していく中で、子どもの実態やそれに伴う指導についての課題がはっきりとしてきた。

感性の育成に関して

- ロビーコンサートや暗唱大会など子どもが主役となる発表の場が設定され、回を重ねるごとに子どもたちに自信がついてきている。
- 読み聞かせなど読書活動の充実により、子どもたちが本に親しむようになった。

2. 今後の課題

「読み・書き・算」についての取り組み
・ 音読の習慣化がなかなかできない。具体的な方策を検討していく必要がある。
・ 計算力テストでつまづいている子どもへの個別指導の時間が十分もてなかったため、放課後指導の時間等を有効に活用していきたい。
授業に関して
・ 自己評価、相互評価についての研究が十分できていないので、来年度の課題としたい。
・ 主体的に課題を見付け取り組む姿勢を育成するために、学び方を学ばせることも必要である。
豊かな感性の育成に関して
・ 体験活動を通して、自分の感じたことを積極的に表現するということが今一歩である。もっと表現力を伸ばしていきたい。

学力等把握のための学校としての取組

定期的な学力調査の実施（2月 - CRT, 4月 - NRT）
・ 調査の目的 - 学習内容の定着率の確認・ 一人一人の児童の学力の傾向の把握 指導方法の改善・工夫のための課題の把握
漢字力テスト（4月 - 全学年まで 学期末 - その学期の定着率調査）
・ 調査の目的 - 学習内容の定着率と1年間の伸びを確認する機会 指導方法について教師が自己評価する機会
・ 実施内容 - 自校で作成するテスト 習った漢字を熟語にするなどして各学年40題出題
計算力テスト（学年末）
・ 調査の目的 - 学習内容の定着率と1年間の伸びを確認する機会 指導方法について教師が自己評価する機会
・ 実施内容 - 自校で作成したテスト 「数と計算」領域から出題
子ども・保護者に対するアンケート調査（学年初め・10月頃）
・ 調査の目的 - 家庭での学習の様子や子ども学習への取組等の変容の把握
・ 実施内容 - 学習への姿勢、子どもたちの実感・思いなど

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・ 研究成果普及のためのHP作成
・ 平成16年度「地域が育む『かごしまの教育』県民週間における拡大自由参観日の設定（平成16年11月2日予定）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無